

## Endodontics with or without Dental Operating Microscope

1980年代から北米やヨーロッパの一部の臨床家の間で、歯科領域での臨床応用がされ始めて以来約30年が経過し、歯内療法専門医の世界では歯科用顕微鏡(以下：Dental Operating Microscope:DOP)の使用はもはや常識的なツールとなっている。一方で、同諸国での一般歯科医師のDOM使用率は高くはない。

日本においては先進諸国内でのDOM普及率は相対的に高いと言われている。しかしながら、普及率と使用率は必ずしも一致しておらず、多くの診療所においてその高価な機械は診療室のオブジェと化しているのが現状だ。新しいもの、流行り物への購買欲が高いのは、その理由が我が国の国民性なのか、業界のマーケティング力の賜物なのか、歯科医師の献身性なのかは別として、興味深い現象である。

本講演ではDOMの使用が「根尖性歯周炎の予防と治療」という命題の解決の一助となるのか否か、を考察する。